

## 講演「多文化共生」とわたし 稲村哲也

|   |                     |                                           |
|---|---------------------|-------------------------------------------|
| 1 | 私のこれまで：経歴、研究と多文化共生  | 1-1 経歴、研究、実践活動<br>1-2 リトルワールドでの活動         |
| 2 | 万博と多文化共生の実践         | 2-1 万博の黒い歴史と新たな転回<br>2-2 愛・地球博と「愛・地球博20祭」 |
| 3 | これからの「多文化共生」と国際交流協会 | 3-1 「多文化共生」の理念 万博の転回<br>3-2 国際交流協会のこれから   |

### 2-1 万博の黒い歴史と新たな転回

#### ◎万博の黒歴史：植民地主義の重要な社会的装置

- ・1851年ロンドン万博：ガラス張りの「クリスタル・パレス」、蒸気機関車など  
\* 植民地パビリオンで各地の原産物などを展示
  - ・1867年パリ万博（日本の幕府と薩摩藩、佐賀藩が参加）：
  - ・1873年ウィーン万博（日本政府が公式参加、岩倉使節団）展示物が東博に
  - ・1878・1889年パリ万博：植民地の街並み再現、ワイルド・ウエスト・ショー（植民地先住民と集落の展示）、白人優位主義（社会進化主義）  
\* 植民地主義・帝国主義のサポート・推進
  - ・1893年シカゴ万博 1899年の米西戦争で獲得したフィリピンの先住民など展示
- ★日本も同様の方向に：内国勧業博覧会で台湾、朝鮮など植民地の展示

### 1-1 私のこれまで 経歴、研究、実践活動

1950年 稲村、静岡県駿東郡長泉村(当時)に生まれる。1968年 沼津東高校卒業  
 1968年 東京大学理科Ⅱ類入学、ヨット部に入部。同年 学園紛争で全学ストライキに入る  
 1968年 「人間博物館(リトルワールド)構想」：大阪万博が契機に  
 発案者は名鉄・土川元夫会長：東大・泉靖一教授に相談。東大助手(当時)大貫良夫氏を派遣  
 1969年 ●朝日洋上大学で約40日間の船旅、ハワイ、アメリカ西海岸に。CA大学：ヒッピー運動拠点  
 1969年 東大入試中止。その後、稲村は留年(降年：2年下)に  
 1970年 大阪万博。泉靖一教授が急逝。江上波夫氏(東大名誉教授)が引き継ぐ  
 1972年 教養学科文化人類学専攻に進学、メキシコ留学・グアテマラでマヤ民族調査(1973～1975)  
 1976年 大学院進学、●ペルーで現地調査(リャマ・アルパカ牧民のケチュア民族：1978～1981)  
 1977年 国立民族学博物館開館(梅棹忠夫館長)。1979年 大貫良夫氏が東京大学に異動  
 1981年 稲村帰国、リトルワールド着任(大貫良夫氏に請われて)  
 1983年 リトルワールド開館(江上波夫館長)1998年 大貫良夫氏が館長に着任  
 1987年10月 愛知県立大学に異動  
 2005年 愛・地球博(愛知万博)：国際シンポジウムなどを開催、後に公園マネジメント会議・会長  
 2008年 ●多文化共生研究所(愛知県立大学)設立、先住民族サミット・アイヌモシリ  
 2010年 ●「先住民族サミットinあいち」開催  
 2013年 放送大学に異動、博物館関連科目、レジリエンス関連科目、兼高かおるリメイク番組  
 2014年 長久手市国際交流協会会長に着任、みんなのEXPO、拠点形成、新世代育成、などに注力  
 2025年 ●愛・地球博20祭「地球大交流・未来共想プロジェクト」(3月～9月)

### 2-1 万博の黒い歴史と新たな転回

#### 1904年セントルイス万博の「人間動物園」

欧米を頂点として文化発展レベルを示そうとした

- ・「フィリピン村」諸民族1,000人以上の生活を展示  
米西戦争(1898年)で獲得した植民地の支配の恩恵を紹介する設計。
- ・アメリカ軍に捕らえられたインディアンの族長ジェロニモらの生活展示
- ・「ダーケスト・アフリカ」約100人のアフリカ人がジャングルを模した場所に展示。  
野生動物に囲まれ、原始的な土地であるかの錯覚。
- ・「カイロの路上」約200人のアラブ人やエジプト人がダンス、音楽、アクロバット、  
蛇使いなど、西洋人の東洋趣味的空想(オリエンタリズム)に訴える演技を披露。
- ・明治政府が日本庭園などの展示：強国日本の宣伝と植民地支配の正当化を謀った  
(ロシアは不参加)
- ・J. パチェラー(イギリス公教会宣教師、アイヌの復権に尽力した「アイヌの父」)が  
アイヌ民族の参加を斡旋

## 2-1 万博の黒い歴史と新たな転回

### 現代の万博

BIE「EXPOは世界的課題の解決を目的とする」を決議(1994)  
～万博理念の転換:ポスト・コロニアル的転回

愛・地球博(2005)は、その理念を受け継いで21世紀初の開催  
ただし、現在もEXPOは、本音では開発・経済(ex.大阪万博)

現代社会において「自然との共生 & 多文化共生、さらに科学との共生」が極めて重要！  
EXPOと博物館は、その役割をになっていく！

\* 文化相対主義(文化に優劣はない)を貫く:その限界も理解しながら！

## 2-2 愛・地球博20祭 地球大交流・未来共想プロジェクト

■こども地球村(村開き)～国連こども環境ポスター展&ワークショップ～ 6月14日(土)・15日(日)

■カナダ先住民族クリーの長老の語りと「虹の戦士」公演 6月20日(金)愛知県立大学企画

■地球大交流 7月5日(土)・6日(日)

「世界の音楽と食の広場」「世界の街角」大芝生広場

「世界交流広場」地球市民交流センター

こども地球村～国連こども環境ポスター展&ワークショップ～ 7月5日(土)

特別企画「人類史的視点からの未来共想」7月6日(日)

第1部:アイヌやマオリなど先住民族の伝統文化の紹介

第2部:対談「地球大交流:グレートジャーニー 山極壽一 & 関野吉晴」

第3部:未来共想フォーラムⅣ「地球的課題とレジリエンス～先住民族からの視点をふまえて」

■未来共想フォーラムⅤ「愛知からの問いかけ——『自然の叡智』とアート」9月14日

## 2-2 愛・地球博20祭 地球大交流・未来共想プロジェクト

■前夜祭 3月23日(日)

第1部:オープニング「世界の音楽で祝20祭」

第2部:未来共想フォーラムⅠ「愛・地球博とわたし」

\* エッセイ「愛・地球博とわたし」募集の告知

第3部:特別企画「小さい国からの声」

■フラワーピクニック「オープニング音楽祭」3月25日(火)～28日(金)

■通期のワークショップ「ネイティブアート」全15回

場所:愛・地球博記念館、野外民族博物館リトルワールド

■特別企画「まつりとコミュニティ」5月18日(日)

第1部:未来共想フォーラムⅡ「まつりの力と絆」

第2部:祭・民俗芸能 実演

第3部:未来共想フォーラムⅢ「地域づくりとレジリエンス(危機を生きぬく知)」

## 3-1 多文化共生の理念 万博の転回

### ◎万博とミュージアム:コロニアリズムとポスト・コロニアリズム

\* コロニアリズム(植民地主義):植民地支配を支えた(人種差別、社会進化主義的)思想や体制、暴力、搾取、人権侵害(奴隷、強制労働など)

### ◎ポスト・コロニアリズム:

・現代におけるコロニアリズムへの批判的考察、議論、運動:略奪品の返還運動も

・社会問題(差別、人権問題、貧困と社会的格差、暴力、搾取など)をコロニアリズムの影響や継続(および「新植民地主義」)として包括的とらえる視点

・万博:開始当初からコロニアリズムを支持。次第に過激化した。

⇒現在:理念の転換＝「ポスト・コロニアル的転回」

「多文化・環境・科学技術との共生」など地球的課題解決！

3-1 多文化共生の理念 **地球的課題の解決**

## ■レジリエンス（危機を生き抜く知）

新型コロナ：身体内の見えない「危機」⇒人類共通の危機  
⇒共感能力拡張の好機、であったはず

地球環境（プラネタリー・バウンダリー、人新世、地球沸騰）  
⇒「経済効率中心」思考からの脱却

戦争：集団を超える地球レベルでの「共感能力」の拡張が必須

## 3-2 これからの国際交流協会

方向性：（新たな）万博の理念を継承

- ・「フォーラム」（交流の場）としての国際交流協会をさらに発展
  - ・多様な住民（外国人、留学生等）との企画の協働
  - ・「みんなのEXPO」のさらなる発展
  - ・文化行事・コンクール（「くーてトーク」など）の文化交流実践の拠点化
  - ・会員・スタッフのさらなるスキル強化（日本語教室など）
  - ・他地域の国際団体、（リトルワールドを含む）諸機関との連携
  - ・地域の大学との連携のさらなる強化
- ◎「多文化共生」の地域でのとりくみに展開

3-1 多文化共生の理念 **万博の意義 国際交流協会の役割**

新たな転回をした万博こそ、地球的課題への  
現実にある「世界最強の装置」

「環境・多文化・科学との共生」の理念と実践、多世代の参加  
祝祭（非日常）、アートと芸能（共感）、多様な主体の参加と協働

（万博開催都市）長久手の国際交流協会  
万博の理念・「日常的」実践を継承！

ミュージアムも同様！（リトルワールド館長としての認識）

ご静聴ありがとうございました。

## 参考図書：

稲村著『遊牧・移牧・定牧』ナカニシヤ出版  
稲村編著『博物館概論』ほか（放送大学教育振興会）  
稲村ほか編著2022『レジリエンス人類史』（京都大学出版会）  
稲村著『NHKラジオ こころをよむ ミュージアムの「こころ」』（NHK出版）、ほか